

STEP  
11現地での安全対策  
安全な旅のために

準備段階での注意事項の徹底から一歩進めて、万が一のトラブルが生じてしまった場合の現地での対応方法を中心にまとめました。これらの対策も、旅行会社と学校が連携しながら準備段階からしっかりとシミュレーションしておくことが前提となります。以下に改めて欠かせないポイントを記します。

## 現地でのけがや病気の対応

- 現地コーディネーターの協力体制など、旅行会社と万が一の場合の対処法を決めておくことが大切です。また、ホテルのフロントにも信頼できる対応を期待することができます。これも事前に確かめておくといでしょう。大きなけがや病気で緊急入院した場合は、最寄りの日本大使館、総領事館に相談してください。患者の状況および要望に応じて、次のアドバイスや支援を行ってくれます。
  - 弁護士や通訳、医療機関に関する情報の提供
  - 家族が現地に早く出発できるようパスポートの緊急発給
  - 現地警察や保険会社への連絡の助言・支援
  - 現地で治療が不可能な場合、緊急移送に関する助言や支援
  - 家族との連絡の支援
- 下痢は、水質の違いや旅行中の疲れなどによって、現地で最も起こしやすい症状の一つです。対処法として、下痢による脱水症状を予防するために水分を十分摂らせ、食事は消化によい食べ物などを与えましょう。
- 高熱(39℃以上)や激しい腹痛、ひどい血便などを発症した場合は伝染病や感染症の恐れがあるため、速やかに最寄りの医療機関を受診しましょう。ただし現地の病院で受ける輸血や手術、注射などはエイズ、B・C型肝炎などにかかる恐れがあるため、事前に現地医療事情を調査しておくことも必要です。

## 現地で万が一、盗難などにあった場合

- 現地警察に被害の事実を速やかに届け出て、ポリスレポート(被害届の受理証)を受け取ります。この書類は、パスポートの再発給や保険請求などを行う際に必要となります。
- ポリスレポートを受け取ったあと、盗難や紛失した物の種類に応じて所定の機関や旅行会社に至急連絡し手続きを行う必要があります。それぞれの種類に対応した連絡先をまとめました。
  - パスポート:最寄りの大使館、総領事館
  - 航空券:購入先の旅行会社、航空会社
  - 各種カード類:カード発行会社
- 盗難などの被害に遭った場合、くれぐれも犯人を追いかけるなどの行為は慎み、速やかに教員(引率者)に連絡するよう指導することが大切です。

## 海外旅行保険に加入している場合

現地で病気やけがをした場合、また携行品の盗難にあった際は保険会社に連絡し、補償項目・金額等の確認を行ってください。

## お役立ちコラム

## こんなトラブルは想定内に

地下鉄を乗り間違えて迷ってしまうなど、グループ行動でトラブルが生じる可能性があります。携帯電話を持たせる措置はしていても、生徒がその存在に気づかないほどパニック状態に陥って連絡がつかなかったという事例もあります。

順調に日程が推移していても、日程後半や最終日は気持ちのゆるみも出やすく、旅の疲れで注意力も散漫になりがちです。最終日の朝、寝坊して荷物の運び出しにギリギリ間に合ったケースや、盗難に遭ったケースもあります。

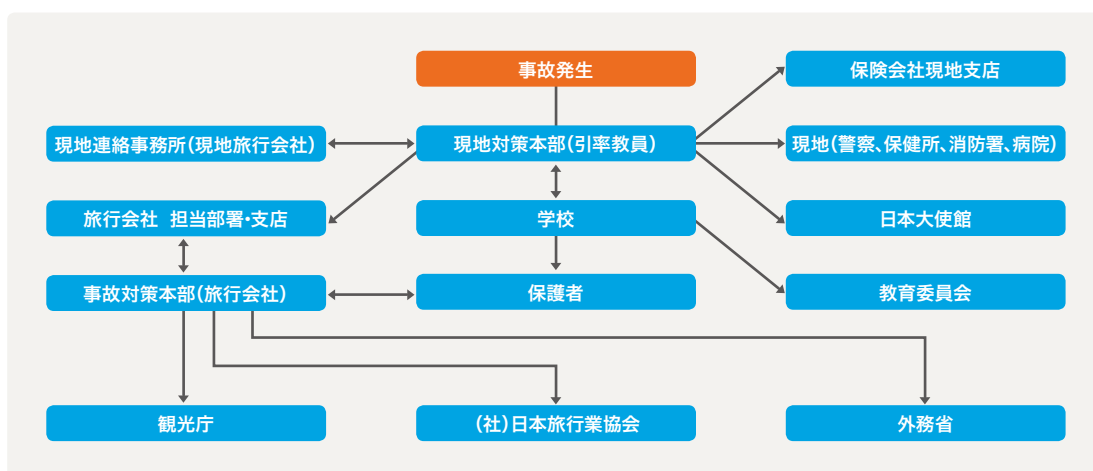
## 現地での生徒の健康管理体制を構築

いつもと違う環境のなか、情緒不安定になり体調を崩す生徒もいます。そこで、現地での生徒の健康管理体制を構築することが重要です。医療体制の面では、養護教員とは別に看護師を同行させたり、日本語ができる現地医師による診察を用意したりすることも可能です。しかし、これだけの体制を整えても、最終日に寝不足に陥り空港で倒れ、危うく飛行機の出発に間に合わないという事態も起こりえます。生徒自身にも自己の健康管理に気を付けるよう促すと共に、健康管理体制を徹底するよう心がけましょう。

現地の医師とコミュニケーションをとらねばならないケースも生じうるので、訪問先周辺の医療機関などについて事前に情報収集を行うことも大切です。周到的な準備が不安感を減らし、現地でのトラブルを最小限にとどめることにつながります。

## 緊急連絡体制図

緊急連絡体制の一例をお示しますので、ご参照ください。



参考 外務省 海外安全ホームページ(URL:<http://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>)  
厚生労働省検疫所 FORTH(FOR TRAVELLER'S HEALTH)(URL:<http://www.forth.go.jp/>)

